
仮面ライダー

菅原 涙茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー

【Zマーク】

Z9253Z

【作者名】

菅原 泠茶

【あらすじ】

wの世界でデーパント（敵）が暴れ始めた最初は必死になつて戦
つたが何百体もいるからきりがない仕方なく仮面ライダーの仲間に
助けを求めるが・・・

#バトル田舎ごっこ（繪畫版）

樂じこと思ふ事あるでよろしくお願いします

キバとの出会い

私は、フィオナと左 夏木はある世界を旅をしていった。（フィオナと夏木は仮面ライダーW）

その世界は、キバの世界。

フィオナ『きや何？』

夏木『あれば・・・敵、怖い』

それは、キバの敵スパイダーフィンガイア（3体）だった。

フィンガイア『け、け、け』

それを言った直後フィオナに襲ってきた。

フィオナ『きやあ、助けてー』

ブロロン・ブロロン・

夏木『キバ・・・』

『フィンガイア、お前の相手は私よ』

（キバフォーム）

夏木『お、女子？』

キバ『ダークネスマ・ンブレイク』

フィンガイア『ワアア』

フィンガイアはダークネスマーンブレイクをよけた。

W『任して、変身』

『サイクロンジョウカーチ』

夏木￥ジヨウカーメモリ

フィオナ￥サイクロンメモリ

フィオナが倒れた

W『逃げちゃ駄目だよ』

フィンガイア『けつけつけつ』

W『ジヨウカーエクストリーム』

フィンガイア『わーーー』

W『終了』

キバ『あなた強いのね』

夏木『別に、 それでもないよ』

フィオナ『あなたの名前は?』

キバ『紅 美鈴よろしく』

フィオナ『よろしくね』

美鈴『てか何で『がこの世界に居るのですか?』

夏木『あの、私たちの世界で、ドーパントという敵が暴れまわつ
ていて』

フィオナ『戦つても、何百体居るからきりがなくて』

夏木『だからキバに手伝つて欲しいと思いまして』

美鈴『いいよ、手伝つてもらつたたから手伝います』

夏木『ありがとづ』

フィオナ『そういうえば、あともう一人仮面ライダーの助けを求め
ますか』

美鈴『3人より、4人の方が勝つ効率は高いと思いますが』

夏木『じゃあそつしましょづ』

キバとの出会い（後書き）

また、見てください

仮面ライダー響鬼の世界（前書き）

キバの世界からやってきた美鈴^{キバ}とフイオナと夏木一體これがひびき
なるのか

仮面ライダー響鬼の世界

響鬼の世界に灰色の光が現れたその中から夏木、フィオナと美鈴
が出てきた

夏木『ここは、住宅街なのにやけに静かですね』

美鈴『本当に来れるとは思ってなかつたです』

フィオナ『普通は、そうと思うでしょう』

夏木『ちょっと、歩いてみましょうか』

美鈴『あつちから、悲鳴が』

フィオナ『行ってみましょう』

3人は走つて悲鳴の聞こえた場所に行つた

夏木『ハア・・・ここはどこですか』

美鈴『あつ、あそこに敵が』

フィオナ『魔化魍だよきつと』『クワガタみたいな形』
通りすがりの人『きやあああああああ』

ブロロン・・ブロロン・・

夏木『あ、あれは仮面ライダー響鬼』

美鈴『戦い方をみましよう』

2人『はい』

響鬼『お前の相手は、この俺だぜ』

魔化魍『グゲ?』(なに?)

響鬼『ほらほら、攻撃してみろよそのへナチヨ!』

魔化魍『グググググググ』(怒つたぞ)

響鬼『早く来いよばーか』

魔化魍『いくぞ』

響鬼の後ろ行き5発殴つた

響鬼『痛つてー、俺の必殺技をみしてやる』

響鬼『火炎連打の型』

ドンビコドンビコ

魔化魍『や、やられたー。』

美鈴『あのーー』

響鬼『なんだい?』

夏木『私たち仮面ライダーなんですね』

響鬼『嘘でしょ。君たちみたいな子どもが仮面ライダーなんて』

夏木『ファイオナ変身』

サイクロン、ジョーカー

美鈴『変身、キバット』

響鬼『本当だつたんだ、ごめんねあなた達は仮面ライダー wとキ

バ?』

w、キバ『はい』

響鬼『なぜ、この世界に来たの?』

夏木『私のwの世界は前まで平和でした、でも、ある日ドーパントという敵が現れました、wは必死に戦いましたが何百体もドーパントがいたのできりがありませんでした、なので最初にキバの世界に行き助けを求めました、2体よりも、3体といいますからお願いです。wの世界を救ってください』

響鬼『俺の名前は響 大介よろしく』

響『wの世界を救いましょうもう、これから行きましょう』

『はい』

仮面ライダー響鬼の世界（後書き）

みなさんどうでしたか、楽しんで読めましたでしょうか。これからも、書きますのでよろしくお願いします。

決着の前1（前書き）

夏木とフィオナは、2人の仮面ライダーを連れてWの（自分の世界）に戻ってきたこれから、敵と戦う時にもう一人の仮面ライダーが現れる

決着の前1

夏木『私たちの世界に戻つてきましたね』

フィオナ『これから、敵と戦つていかなければならぬのね』

美鈴『そうよ』

その時、上から『ヒー』といつ声が聞こえた

フィオナ『なに?』

夏木『あれは仮面ライダーディケイド』

美鈴『あの人気がいろいろな世界を滅ぼした人?』

ディケイド『俺は、そんなんじゃねいよ』

作『滅ぼしたのは、本当ですけど』

ディケイド『嘘だーい』

夏木『子どもみたい』

美鈴『本當だ』

作『クスクス・・・』

ディケイド『笑うことでもないやーい』

フィオナ『何で、Wの世界に?いるんですか』

ディケイド『風の噂なんだが、Wが仮面ライダーの仲間を探して
いると聞いてな』

夏木『一応、私とフィオナがWで美鈴さんがキバで大介さんが響
鬼だけど。』

美鈴『一緒に戦つてくれるのでですか?』

ディケイド『ああもちろんさ』

大介『皆さん 僕のこと忘れてない?』

美鈴・フィオナ・夏木『ぎやああああああああ・・・』

大介『そんなんに、驚かなくても、いいんじゃないかなー』

美鈴・フィオナ・夏木『ごめんごめん』

ディケイド『戦うときのために今日は、早く寝よう』

夏木『戦うのは、明日では、ありませんD-パントにはあさつて

作=作者

来るようごとにいいましたから

作『そんなことができるのですかねーー』

ディケイド『わかりました、でも眠いので寝ます』

いま、午後7時です。

作『寝るの早くね！！！』

では、また次話で・・・

ディケイドの名前は尾崎 慎吾

決着の前1（後書き）

作『それにしても慎吾は寝るの早くない？』
夏木『でも、戦いが長引いた時には嫌なことですね』
作『そうだね、夏木あとは、寝させないようによろしく』
夏木『分かりました』

皆さん読んでいただきありがとうございました。

決戦の時（前書き）

作『テイケイドは本当色々な世界を滅ぼした人なんだってね』

フィオナ『そうだと思います。』

夏木『この話は、後にじて、第4話め始まります。』

作『ちよつとまつてよー』

決戦の時

夏木『あ、敵が来ましたよ』

フィオナ『では、』

夏木・フィオナ『変身!』

『サイクロン・ジョーカー』

W『変身完了!』

美鈴『変身、キバット』

キバット『ガブツ』 キバット=キバの変身するときの道具?
みたいな物

キバ『変身完了!』

大介『変身』

響鬼『変身完了!』

慎吾『変身』

ディケイド『変身完了!』

W・キバ・響鬼・ディケイド『じゃあ、ひと慣れしますか。』

みんな『いつかはおれがおれ』

『一派ノハテ』也哉也哉也哉

(何千体)

キバ『あれ、？何百体つて言つてなかつた？』

W『増えてますね』

キバ 必殺技ダークスネムーンブレイク』

(キバフォーム)

ペーパントはこの技で一気に50体も倒した

この戦いの続きはまた今度、

決戦の時（後書き）

作『疲れました』

キバ『こんな時にそ、私の必殺技でめを覚まさしてあげよつか？』

作『それは、一番イヤだから、遠慮するよ』

キバ『作者に目を覚ませるのに時間がかかるからまた次回お会いしましょう。』

ドーパント×仮面ライダー1（前書き）

4体の仮面ライダーで、この世界の敵と戦っていたその時、

・・・

ドーパント VS 仮面ライダー 1

美鈴『今日から、本格的に、ドーパントと戦う』

フィオナ『準備はいい?』

夏木『私は、変身したらOKよ』

大介『俺も、バツチシだぜ』

慎吾『俺も・・大丈夫だ』

作『数秒の沈黙は何だつたんだろうか』

美鈴『それは、置いといて変身』

美鈴『キバット』

キバット『ガブツ』

キバ『変身、完了』

フィオナ・夏木『変身』

『サイクロン・ジョーカー』

W『変身、完了』

大介『変身』

慎吾『變身』

大介『变身完了』

慎吾『变身完了』

キバ『バツシャーフォーム』

『バッハ必殺技・アケアトルネード』

した
ハンケチをアブソーブして30度倒

した
W『必殺技ジヨウカーエクストリーム』
この技で50対倒

アーバントアアアアアアアアアアアアアア

この続きは次話で・・・

♪ペントレジ漫画ライターー（後書き）

作『虽然えど、楽しく読んでいただけたでしょつか、』

フイオナ『この作品で本当に皆さんのが楽しんでいただけたとおもつ
ひがおもつ』

作『やうせ、思こはしないと想ひながら、』

フイオナ『やうて決まつてるじやん』

作『はい、うひうひええええええーん』

フイオナ『あんな作者はおいたとい、次話もどうぞ、読んでみて
ください』

ドーパント×仮面ライダー2（前書き）

作『今日は、宿題が簡単だったので、小説をかいていたら、肩が疲れてやばいほどカツチカツチに』

夏木『そんな事は、おいたいて、6話めはいります』

ドーパントVS仮面ライダー2

W『はあーー』

キバ『きりがない』ガルルフォーム

響鬼『もう、俺駄目かも』

W『あきらめないで』

キバ『必殺技ガルル・ハウリングスッラシュ』

ドーパント『つぎやー』

響鬼『あと、5000体ぐらいいるぞ』

W『必殺技ジョウカーエクストリーム』

響鬼『あと、4500体ぐらいだ』

キバ『それまで、体力がもつかどうか』

W『順番に、10分間戦つてずつ、その間にほかの仮面ライダーが休めばいいと思う』

全員『それはいい考えだ』

W『じゃあ、最初は、私は、次は、キバ、次は響鬼』

響鬼『あれ、？』テイケイドは？』

W『自分の世界に帰っちゃった』

キバ『『帰るんなら、最初から来なればいいのに』

全員『納得』

W『『じゃあ、私が戦つて来るからみんなはやすんでいて』

キバ、響鬼『うん、ありがと』

ドーパントバッジ版ライダー2（後書き）

作『久しぶりに更新したよー』

フィオナ『良かつたね』

夏木『早く、また更新してよ』

作『はい、みなさんこれからもよろしくお願ひします』

あの人たちがここに・・・（前書き）

作『ハロー、今日は、新しい人が出るよ楽しみにしてね』

の人たちがここに・・・

リュウセイ『みなさんこんにちは』

フィリア『リュウ！みんなのな忘れているよ』

リュウセイ『じめんじめん』

フィリア『あつ、みなさんこんにちは、私は、フィアナ、でこの人は、リュウセイ（リュウ）今、一人で旅をしています』

リュウ『あつドーパント』

フィリア『あそこで、仮面ライダーたちがたたかっている』

リュウ『戦っているのは、ワ、キバ、響鬼だな』

フィリア『もしかして、一緒に戦うつもりじゃないでしょうね』

リュウ『よく、分かつたな俺は、もちろん、たたかうぜ』

あの人たちがここに……（後書き）

作『新しく、出てきたのは、リュウセイとファイアナか』

夏木『一緒に戦ってくれるのは、ありがたいけど、なんか不安が少しあるよ』

作『まあ大丈夫でしょう』

夏木、『でも、……そんな事はおいといて、では、次話も読んでください』

おや、参上（詫問めい）

作『樂しへ、よろでへだれこ』

おれ、参上

キバ『きりがない』

響鬼『もうちょっとだ、あと200体ぐらいだぞ』

W『頑張りう』

プウーン・・

W『あれば、デンライナー』

キバ『つてことは、電王がいるはずじや』

良太郎『いんこちは』

W『そんな事言つている場合じやないよ』

良太郎『変身』今は、モモタロスが入つている

電王『おれ、参上…』

キバ『はいはい、それはいいでおしまい』

電王『エクストリームスラッシュゴ』

ドーパント『わせよおおおお』この攻撃で20体倒れた

キバ『私が、戦うみんなは、下がっていて』キバフォーム

キバ『ダークネスマーンブレイク』

ドーパント『うきよおお』この攻撃で、50体倒れた

この必殺技と同時に、キバの変身が解けた・・・

W『大丈夫? 美鈴』

美鈴『大丈夫、心配しないで』

W『戦うから、安全な場所に行つて』

美鈴『がんばって』

おれ、参上（後書き）

作『読んでいただきありがとうございます』と『おまけ』

電王の技、助け綱に

夏木『美鈴のためにも、私が頑張らなければ』

フィオナ『うん』

美鈴『さやあ…………』

夏木『どうしたの』

響鬼『いま、急に、ドーパントがきて、美鈴が抵抗したところ、10体が突然きえた』

美鈴『なぜ、きえたの』

電王『おれ、参上……』

夏木『無視して、響鬼あと敵は何体ぐらいいる?』

電王『無視された』

響鬼『あと、100体』

夏木『わかつた、電王! ! ! 、キンタロスが乗り移つてもうひとつ、』

電王『俺の強さに、お前がないた』

フィオナ『そんな事は、どうでもいいから、早く、攻撃をしなさ

い
』

命令だ——

電王『分かつた、必殺技、ダイナミックチョップ！－！』

この技は、まったくきかなかつた

電王『なに？？？、ウラタロス！－！入れ』

電王『僕に釣られてみる？』

誰も、反応しなくなっていた

電王『必殺技、ソリッドアタック』

この技は、ドーパントを20体倒した。（あと、約80体）

夏木『よっしゃ——』

フィオナ『夏木！！男前！！』

（夏木はつっこんでいる暇はなかつたので、心のなかで、つっこ
んだ）

（ちやうわ、このボケ×10）

美鈴『助かつた』

電王の技、助け綱に（後書き）

作『この続きを、次話で』

夏木『そんな事、知っているわ』

作『夏木なんか、つっこみ激しくなったね』

夏木『そつかなー』

作『じゃあね』バーヴ

決着（前書き）

作『10話田なので、見てください』

夏木『こんな作品ですが、どうやら、最後まで見てやってください』

^_^『では、始めます』

決着

電王『みんな反応してくれないし、つまらないな』

W『だって、みんなが反応しないのは、あなたの言葉が、面白くないからだよ』

電王はちょっと、静かになつたのであつた。

響鬼『よし、静かになつた！！！、残りの敵は、80体』

W『この様子なら、大丈夫だよね』

電王『大丈夫、大丈夫』

響鬼『こいつが、大丈夫と言うとなんか心配になつて来る』

また、電王が静かになつた。

美鈴『「めんね、戦えなくて、』

W『別にいいよ、』

響鬼『うん、じゃあ攻撃だ』

電王『俺、参上！……』

全員無視！……

W『必殺技、ジョーカー・エクストリーム』

ドーパント『つぎやああああああああああああああ

この攻撃で、50体、が倒れた

電王『いいじゃん、すげーじゃん』

やつぱり、チャライので、みんな無視！！

響鬼『必殺技・火炎連打の型』――――――――――――――――――――――――――――――――

ドーパント『つぎやああああああああああああああ

Jの攻撃で、30体が倒れた

美鈴『終わった、この戦いが終わった、』

響鬼『変身！解除』

W『今度こそ、私達の世界が平和になった

W『変身解除』

電王『終わった、終わった、変身か、い、じょ』

夏木『でも、みんなの世界を守んなきゃ』

フイオナ『やうだよ、守りなきゃ』

美鈴『大丈夫でーす』

響『大丈夫、電王のテソライナーで、前の時間に戻ればいい』

夏木『本当?』

響『そうだ、夏木!これあげる』

「これとは、Wと書いてあるネックレスであった。」

夏木『Wって、私達じゃない』

響『そうだよ、一応、あげるために、作つといたんだ』

夏木『本当に、くれるの?』

響『ああ、じゃあ、あはよ、また会おうぜ、それこそ、こんど響鬼の世界にこみな』

夏木『うん、じゃあね、電王よろしく』

電王『分かつたぜ、あばよ、』

フィオナ『じゃあ、またいくぜ』

男言葉になつた、フィオナであつた。

電王・響・キバ『じゃあな~遊びに、来いよ』

3年後・・・(前書き)

3年後は、もう中学生でーす

3年後・・・

夏木『あの、大事件から、もう3年が経つのか・・・』

フィオナ『あの時は、みんなに助けてもらつたなあ』

夏木『あの、決着のあと、あれから一度も会つていよいよね、また会いたいな』

フィオナ『会いに行つてみようか』

夏木『それいい考え！――よし行こう』

ガチャ・・・

デジライナーの中・・・

モモタロス『へー良太郎と友達なんだな』

夏木『はい』

ウラタロス『僕に釣られてみる？』

フィオナ『？意味不明です』

キンタロス『・・・』

夏木『なんか喋れよ、このデカ』

キンタロス』……………『

夏木『まだ喋んないのかよ……』

リュウタロス『ダンス大好きリュウタロスでーす、一人とも可愛い子じやん』

フィオナ『殴つていい?』

リュウタロス『遠慮しまーす、それに、僕の美しい顔に変な後ついたら嫌だし』

良太郎『遅れた、遅れた』

モモタロス『良太郎! ! ! こんな可愛い子待たせてなにやつているんじやーーー』

良太郎『夏木とフィオナいらっしゃい、あれから、もう3年も経つてしまつたね』

夏木『あの頃は、まだ良太郎も中学生だつたのに、いまは、もう高校生か』

良太郎『そりだよ、だつて、君も、もう中学生じやんか』

フィオナ『それは、そりだけど、だつて、良太郎大きくなつたもん』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

夏木『そんなわけで、響の世界やら、キバの世界やら、関係ないけど、ディケイドの世界に行ってみたくなつてな』

『おじこわんぱくななちゃんつた』

フイオナ『やつこいつことで、連れて行ってね』

良太郎『はい』

夏木『では、ようしゃべ』

到着・・・・・・ですか・・・（前書き）

作『私の作品も、こつぱにになつましたの～』

夏木『あはー……これだけで、満足しちゃいけないよ』

作『はーいでは、12話始まります』

到着・・・・・です・・・・・

良太郎『そりいえば、『ディケイド』って、途中で帰つた奴だよね』

夏木『そうで～す』

フィオナ『じゃあ、ディケイドの世界は、通り過ぎてね！－！響鬼の世界にレッヅゴ～』

良太郎『了解しました』

・・・・・

響鬼の世界・・・・・

フィアナ『着いた～』

夏木『・・・つてか、響何処だよ！－！』

・・・誰も知りません・・・・・

良太郎『多分、森の中でも、入つてんじゃないの？』

フィオナ『そりかもね！－！良太郎！－！』

えつ！－！－！－！もしかして、フィオナって、良太郎の事好きなの～以外！－！－！

響『もしかして、夏木と、フィオナと、良太郎か？』

響だ――――!

夏木『そ、うだよ――あの時は、ありがと「」せこました・・・・・

』

響『役に立てよかつたよ――――』

・・・・・よかつた、ちゃんと、お礼言った・・・・・・・・・・

良太郎『始まりはいつも突然～』

響『電王の歌だな――――で今日は、何の用事があつてきたんだ
?』

何故、いつこうときこ、思い出すんだらうな・・・・・

フイオナ『前、お世話になつた人に、お礼と、今はどうしている
のか知りたくなつて』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

響『あの、ペンドント大事にしてる?』

夏木『うん――――ほら、もう少しもしてないよ――――Wの』

響『素直に嬉しいな～』

えつ――――――――――――――――――――――――――

夏木『これからわ〜、キバの世界に行くんだけど、響も行く?』

響『行く〜夏木に着いて行く〜』

まあ、正直言つて、私も嬉しいけど・・・・・・

キバの世界・・・・

美鈴『ハクショーン!-----!
!-----!
!-----!

キバット『誰かに噂されたか?』

美鈴『多分、噂するとしたら、Wの夏木や、フィオナでしょう!-!
!-!

キバット『そういうえば、あの戦いから、もう3年経つたな〜』

美鈴『そりだね〜、会いに来てくれるかな〜』

キバット『さあな』

響鬼の世界・・・・

夏木『ねえねえ〜響の好きな食べ物は?』

響『あたし、サクランボ』

夏木『大塚 愛之助じゃん』

＝本当は、大塚 愛さん

響『じゃあ、お前は、どうゆう恋がしたい？』

夏木『先輩と後輩関係の恋みたいな感じ』

響『つてかさ～俺をお前の事好きなのに、返事聞いてないんですけど』

えつ！！

夏木『分かれたときに言つたと思つたけど』

響『聞いてないんですけど』

夏木『私は、響のこと三分好きじゃない』

響『ひでー事言つな』

夏木『…………』

響『好きだから、これだけは、言つておく』

キバの世界に到着・・・・・キバットバット4世ひて何者? (前書き)

作『夏木 と響のこれから』の関係が、気になりますな~』

キバの世界に到着・・・・・ キバットバット4世って何者?

デジライナーの中

「 フイオナ、良太郎！！！ まだ着かないの？ モモちゃん遊び～」

モモ 僕に、氣安く触るんじゃねー『

こんなにアヤオガニで辻毛虫たぶたけ？

良太郎『はいはい、モモタロスいい加減しろ!!!!!!』
！－！－！怒るよ－－！後、10分ぐらいで、着くから、もう少し待
ついていてね』

モモタク

良太郎凄い！！！モモタロス黙っちゃつたよ

! ! ! !

夏木『そうだ、響来て！！！』

響 ウカク

夏木『昨日は、「みんなさー！……」、あれからよく考えたら、私も、響好きなのかな~って思つたりやつたり~』

響『分かつた！！！これからよろしく！！僕の彼女さん』

• • • • • • • • • •

キバの世界

美鈴『皆に会いたいな』

ブ
ー
ン

美鈴『テソライナーだ、どうして、ここに？』

夏木
『美鈴』

美鈴
夏木

抱きしめあつた、

フイオナ『美鈴久しづり！－！－！一応、響と、夏木、良太郎と私が
で、来たよ』

美鈴『今ちょ'うび、会いたくなつたとこ』

キバット『何やつてるんだよーーー! 美鈴キバットバット4世が来

たのによ

• • • • • • • 誰？

美鈴『もづ』

響『あれ？ 3年前は、キバットバット3世じやなかつたけ？』

美鈴『なんか、昨日から、入れ変わっちゃったみたいで～』

フィオナ『地球の本棚に、キーワードを入れて』

夏木『まず、キバットバット4世』

フィオナ『いっぴある』

夏木『入れ変わった』

フィオナ『あつたわ！－！－！』

フィオナは、地球の本棚の中の、目の前に現れた、灰色の表紙の、本を取り出し読んでいた・・・

夏木『フィオナ！－！分かつた？』

・・・・・・・・大丈夫かな？

フィオナ『分かつたわ！－！、ちょっと美鈴に質問だけど、昨日オーロラが現れなかつた？』

美鈴『昨日、確か！－！金色の、オーロラが、現れたわ！』

「フィオナ、『更新された情報によると……キバットバット3世は、今は、ディケイドの世界に居るみたい！――なぜかというと、金色のオーロラは、ディケイドの世界に繋がっているのですもの、Wの世界へは、水色など、あるけど』

夏木『という事は、このキバットは、偽者なの？』

「フィオナ、うん』

夏木『許せないよ！――行くよフィオナ』

「フィオナ、YES』

〈サイクロン・ジョーカー〉

「フィオナが倒れた……

W『キバット、待て』

キバット『ふえ？』

といった瞬間

W『ジョーカー エクストリーム』

ドローン……

夏木『終了――！――って、こいつどうする？』

フィオナ『焼く！－！、燻る』

フィオナ！－残酷ついにやつ事だつたんだね

金色のオーラが現れ・・・ディケイドが出てきた

慎吾『ハロー、仮面ライダーの諸君！－！－！あのな、今回は、ちょっと、用事で来たんだが、こいつって、キバの、奴じゃねーのか？』

キバット『放せ！－！－！俺は、キバットバット3世だぞ』

美鈴『キバット！－！－！無事だつたのね～』

・・・・・・・・まあ、良かつたわね

良太郎『じゃあ、今日は、Wの世界に戻つて、パーティーするかい』

夏木『それいい考え！－！－！では、私達の世界に1回帰りましょ
う！－！－！皆ついてきてね』

『世界で、パーティです……か？？？（前書き）

作『色々書いていると、前書きや後書きがめんどくさくなる』

フイオナ『あ～そんな事言つて良いんだ？』

作『駄目でした、では、仮面ライダー14話始まります』

『世界で、パーティです……か????』

夏木『良太郎！……ありがとうございます、では、買出し行かなきゃ、この
んな人数の食べる材料なんてないや』

フィオナ『うちの、冷蔵庫空っぽだもんね』

夏木『そりゃ』

良太郎『これ、姉貴作ってくれたんだけど、おすそ分け』

・・・・・・・・・姉ちゃんつているんだへえ

フィオナ『ありがと、良太郎！……』

響『俺、買出しに行つてくる……夏木ついてきて……』

夏木『うん、いいよ』

お～なんか、誘われちゃつた～～

美鈴『あのわ～、またディケイド帰っちゃつたけど、……』

フィオナ『まあ、自由なのが、ディケイドなんだからさ』

まあ、そうだよね、ディケイドだもんね

なんか、みんな、納得して、響と夏木は、2人で、買い物に行つた

そのころ、

美鈴『つてさ〜響と夏木超LOVE×2じゃん』

良太郎『そうだよね、美鈴！……』

美鈴『だね、良太郎！、でも、この『』、響も、積極的になつたよな』

良太郎『そりだね、夏木を取られてたくないんじやないのかな？？？』

良太郎つて、もしかして、美鈴の事が好きなの？？？私は、
好きじゃないの？？

良太郎『帰つてくるの待といつね』

美鈴『うん、そりだ、ちょっと冷蔵庫のぞいてみよ』

ガチャ・・・・・

フィオナ『一応私も、居るからね』

美鈴『ごめん、勝手にのぞいちゃつた・・・・、あつ野菜がいつ
ぱいある、これで、野菜炒めでも、作つとくか〜』

フィオナ『私も、手伝つ、良太郎に、食べさせたい！……』

美鈴『じゃあ、お願ひする』

良太郎『フイオナは、料理上手なのかな？？？　食べてみたいな
～、早く作つて』

フイオナ『はーい』

一方、Love×2の2人は？？？

響『ここの、スーパーでいいの？』

夏木『良いんだよ！！！』

響『えっと、お肉と、サラダ油、牛乳などなど、だつて』

夏木『私、サラダ油を探していく、響は、お肉選んで』

えつと、これだよね、・・・あれ??？？？　ドーパント・・・

響『夏木、サラダ・・・・ドーパントだよね』

夏木『多分・・・・・・・・』

＜サイクロン・ジョーカー＞

急に、フイオナが倒れたので、みんなビックリ

W『ジヨーカーエクストリーム』

W夏木――急に呼び出されなことでよ、ビックリしちゃったじゃ
ん

W(夏木)『「ぬん、マジで、」んび、お菓子買つてやつから』

・・・・駄目かな

『いいよ』

単純――

ドーパントとまたまた戦い？？？？？（前書き）

作『仮面ライダーももつすぐ完結？？？？』、今まで、読んでください
せつたみなさん、ありがとうございました』

夏木『こんな作者は、放つておいて、仮面ライダー 第15話、
始まります』

ディーパントとまたまた戦い?????????

『…！』
W「せっかく、戻ってきたのに、何で、ドーバントこむの？！

響『しらね』上

『もう、早く終わひすからね』

今日は、不機嫌だな、フイオナ

W『ジョーカー・エクストリーム』

ドッカーン

＜变身・解除＞

響『大丈夫だつたか？？？夏木？？？￥￥￥￥￥￥￥￥￥￥￥￥￥

夏木『うん、つてか、絶対もうあの顔は見たくないぐらい前に見たから、もう絶対に見たくない！』

響『俺も、同感だ』

家・・・・・・・・

フイオナ『はあ、疲れた』

良太郎『大丈夫？？倒れただけど』

・・・・・・・・・・

フイオナ『だって、変身してたもの、仕方ないじゃない』

良太郎『フイオナ可愛い』

ぎゅ！！！

きゅん！！！

美鈴『良太郎を、フイオナに取られちゃった』

夏木『ただいま～』

「れでおしまこーーーーー（前書き）

作『仮面ライダー』れでおしまこです。こままで、ありがとうございました

では、最終話始まります、では、仮面ライダー第1-6話始まります

す

これでおしまい！！！！！

夏木『ただいまー！ー！ フイオナ！ー！ー！』めんね！ー！ー！』

響『あゝ、俺があの時、一人で戦えていれば』

夏木
響は悪くないから、
気にしなくていいんだよ』

そこか！？！

良太郎「ナイオナ好き！！！」

三

! ?

美鈴『良太郎！！！取られた！！！』

良太郎『俺は、自分の意思で、動いたまでの事』

美鈴・フィオナ『かつこいい』

親ばかではなく、友馬鹿かな?????

夏木『これからも、ずっと、みんな、一緒にや……』

全員『うん……一緒に……』

これが、みんなの誓いだつた。

そして、宴が終わり

テソンライナーで、各世界へ守りに行つたのであつた。

一応言つて置くが、恋人同士は、たまに会つた

「おおむねここ……（後書き）

今までおっしゃった通りになりました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9253n/>

仮面ライダー

2011年10月7日23時46分発行